

会 議 議 事 録

1 会議名	平成30年度 3回 長岡市子ども・子育て会議
2 開催日時	平成31年2月26日（火曜日） 午後3時から午後5時まで
3 開催場所	さいわいプラザ 4階 大ホール
4 出席者名	<p>(委員)</p> <p>兒玉優子委員長、山川千恵子副委員長、池田浩委員、 櫻井真理委員、桃生鎮雄委員、竹樋さちえ委員、 宮下あさみ委員、加藤仁委員、長谷川恭平委員、渡辺美子委員、 榎園早苗委員、赤川美穂委員、成田涼委員、田邊香織委員、 高橋美幸委員、横澤勝之委員、井口明彦委員、早川明日香委員、 山岸麻実委員</p> <p>(アドバイザー)</p> <p>小池由佳教授（新潟県立大学）</p> <p>(事務局)</p> <p>子ども未来部：波多部長 政策企画課：林係長 生活支援課：藤田課長 福祉課：仙海係長 学務課：米山係長 学校教育課：江田課長補佐 子ども家庭課：大矢課長、五十嵐課長補佐、鷲頭係長、 大矢係長、小林主査、藤森子どもナビゲーター 子ども家庭センター：木村係長 柿が丘学園：高森園長 保育課：田辺課長、竹田総括副主幹、目黒係長 青少年育成課：斎藤課長</p>
5 欠席者名	河内沙苗委員
6 議題	<p>(1) 長岡市の療育・相談体制の検討ワーキング部会について</p> <p>(2) 生活実態調査報告</p> <p>(3) ニーズ調査報告</p> <p>(4) 平成 31 年度子育て支援事業について</p> <p>(5) 平成 31 年度子ども・子育て会議について</p> <p>(6) 平成 31 年度教育・保育施設の利用定員について</p>

7 その他	(1) 子育て支援団体の活動報告 (2) アドバイザーからのまとめ
8 会議結果の概要	<p>議事 (1) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.1他に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>議事 (2) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.2 に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>議事 (3) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.3, 4に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>議事 (4) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.5に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>議事 (5) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.6に基づき説明した。 ・質問・意見は無し <p>議事 (6) について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事務局が資料No.7に基づき説明した。 ・質問・意見は下記のとおり <p>その他については下記内容のとおり</p>
9 会議内容	
<p>1. 開会</p> <p>2. あいさつ (事務局)</p> <p>3. 議事</p> <p>(1) 長岡市の療育・相談体制の検討ワーキング部会について (事務局)</p> <p style="padding-left: 2em;">下記資料について事務局が説明 資料No.1 「平成 30 年度長岡市の療育・相談体制の検討ワーキング部会 活動報告」 講座チラシ 2種 冊子「ながおか子どもの発達ガイドブック」</p> <p>(委員)</p> <p style="padding-left: 2em;">ガイドブック作成を含め、検討いただきありがたく思っている。私も子供を育てながら、情報が入ってこない時が一番辛い時期だったと思うので、ぜひいろいろなところで活用していただければと思う。</p> <p>(2) 生活実態調査報告 (事務局)</p>	

下記資料について事務局が説明

資料No.2「長岡市子育て世帯の生活に関する調査報告書」

(委員)

クロス集計結果を見ると、大体私達が教育のプロとして日頃子ども達を見ている様子や1人1人が抱える課題とその背景のある家庭状況などが、数的に表れていると感じた。

(3) ニーズ調査報告

(事務局)

下記資料について事務局が説明

資料No.3「長岡市子育て・育ち“あい”プラン策定に関するニーズ調査集計報告書【速報版】」

資料No.4「長岡市子育て・育ち“あい”プラン策定に関するニーズ調査集計報告書【概要版】」

(委員)

資料No.3の23ページ「子どもを育てながら働くのにどんな支援が必要か」という設問で、「子育て者に配慮した労働条件・制度があり、それが実際に活用できる職場環境」が一番回答が多く、半数以上が必要と感じているという状況になっており、職場環境が大切だという議論をさせていただいたが、それが改めて数字で示されているのではないかと思う。

長岡市でも「働き方プラス応援プロジェクト」ということで、職場環境の改善に取り組んでいただいているが、こういった具体的な数字も含めて市の内部でも共有していただき、これからの施策を商工部とも連携して進めていただければと思う。子どもができた時に、働き続けられなかったという意見も多くあったので、そのあたりも併せて検討していただければと思う。

(4) 平成31年度子育て支援事業について

(事務局)

下記資料について事務局が説明

資料No.5「平成31年度 子育て支援事業について」

(委員)

幼児教育保育の無償化の関係で、それに係る経費について国とどう負担するか揉めていたようだが、長岡市としては財政負担はどれくらいになるのか、また、それにより、子育て支援全体の予算の中で他が削られてしまうことがないかお聞きしたい。

(事務局)

今年の10月から幼児教育保育の無償化が実施される。来年度は10月から3月までの半年分ということになるが、この半年分で市としての負担増分が3億8千万

円である。昨年末に新聞等で、負担割合について国と自治体とで検討していると記事があったが、来年度については全額国が負担することになっている。幼児教育保育の無償化を行うことで、当然そのしわ寄せが保育現場、保育施設の整備等にはこないように、十分財政当局とも調整を進めているところである。

(委員)

幼児教育保育の無償化については、3歳以上児の保育料が無償で、給食費のみ徴収するという形になり、子育て家庭の負担が大分軽減される。これは、少子化対策に向けてのパズルのピースの一つではないかなと思う。保育環境の整備については、現在豊田地区の待機児童が非常に多いということだが、平成32年に開園されると伺い、整備が非常に早いなと感じた。

(委員)

放課後児童クラブ、児童館に携わっているが、放課後子ども教室については、その場その場で結構大変なことがあるのだなと感じており、特に放課後子ども教室においてはボランティア頼みだが、地域ごとに偏った活動をしているように聞いている。長岡市として今年度の活動状況について共有する機会があったが、これをもとにそれぞれの良い点を取り上げて活動を支援していただけたらと思う。

(委員)

子ども食堂への支援について、今のところ4団体あり、1団体5万円の補助をするということだが、これから6団体くらい増えるという見込みで試算されている中で、もしこれが増えなかった場合には、今ある団体が活動を拡充したいというような時に支援する余地はあるか。

(事務局)

今ある4団体を支援していきたいのが1つと、予算上はもう6団体分要求している。現在私共のところには3団体程から相談がきており、そのほかにも話があるようなので、期待を込めて10団体分の予算を計上させていただいた。

5万円の補助については、新潟県が立ち上げの際に備品など大きなものを購入する費用として20万円の補助をしている。最近の情報では来年度からこの補助金が無くなるという話もあるが、私共が制度設計をした時には、それに充てられないお金をこの5万円の中で使っていただきたいと考えていた。例えば毎年かかってくる保険料や、食材費、調味料などの消耗品に充てていただければと思っている。今ある団体が活動を拡充する時にさらに増額できないかという件については次年度以降検討させていただきたいと思う。

(5) 平成31年度子ども・子育て会議について

(事務局)

下記資料について事務局が説明

資料No.6「平成31年度長岡市子ども・子育て会議」

※意見等なし

(6) 平成 31 年度教育・保育施設の利用定員について

(事務局)

下記資料について事務局が説明

資料No.7「平成 31 年度 長岡市教育・保育施設の利用定員について」

(委員)

幼稚園が認定こども園になり、小さいお子さんを預かるということは保育士の人数も必要になってくるが、なかなか保育士になりたいという若い方がいないため人員を確保するのも非常に大変だと感じている。若い方が保育の職に就きたいと思えるような職場作りをしていきたいと思っているが、そういう面においても長岡市さんのご協力を得られればいいなと思っている。働くお母さんたちがどんどん増えてきていて、早めに保育園に預けたいというところを助けてあげたいと思う反面、小さいお子さんにとって何が一番大事なのかなど考えたりもしている。

委員より、1年間の活動を通しての感想等を述べていただいた。

(委員)

子どもの貧困について、私共現場の方では常々気にはしているものの、どうしていいか、どう切り込んでいくかという事さえもわからない状況だったため、子どもナビゲーターをはじめとした具体的な動きが出てきて、31年度も引き続きおられるということで非常にありがたく思っている。そういう動きが、現場の職員の意識向上にも繋がり、自分達で状況を確認し、具体的な考えを持つようになってきつつある。いい面での影響、効果が出てきていると実感しているので、ぜひまた来年度もお願いしたいと思っている。

(委員)

子ども・子育て会議がスタートした時は、もっと団体同士連携ができればいいなと感じていたが、今日お話を伺うと、子どもを第一に考えて、それぞれの機関が連携する、といったような言葉がすごく増えたように感じた。昨今のニュースを聞いていると、それぞれの機関は一生懸命やっているが、連携がうまくとれていないというところに問題があり、大事な子どもの命が奪われているように思う。ぜひ無駄なエネルギーを使わず、自分たちの立場を一步引いてでも、子どものために大人が連携していけたらいいのではないかと考えている。

(委員)

会議に参加させていただき、長岡市の子育て事情というものがこの1年を通してよくわかった。新生児訪問など赤ちゃんを対象にした仕事をしている中で、お母さんたちの話を聞いていると、なかなか難しいと思うことが多々ある。保育園についても、赤ちゃんを置いて仕事に行きたくないが、お金がないから仕事をしなくてはならないという話を聞くと、男女平等とはいいますが、平等が全てではなく、それぞれの家庭の事情に合った働き方ができたらと思う。

(委員)

私は子育ての駅で勤務しており、お母さんたちや子どもと関わっていく中で、会議に参加してお話を聞いたり得たりしたことが、自分の仕事や生活に生かすことができ、とても良かったなと思っている。保育園や経済的な問題はすぐに解決できることではないが、先程もお話があったように、子どものことを第一に考えていけたらいいなと思う。

(委員)

長岡市の教育についての取り組みや来年度の計画をお聞きし、先進的に努力しておられるし、また、私の知らないいろいろな取り組みをされている委員の方々と同席でき、大変勉強になった。私は今年子育て支援員の資格を取り、4月には保育士の試験を受けようと思っている。先程、若い方が保育士になってくれたら、といった話があったが、これから資格をとって働いていけるような、中高年にも優しい社会になってほしいと思っている。アンケートの内容で、結婚している自分のイメージがわからない若者が多いということに驚いたことと、0歳児で預けたいという方が去年よりも18人も多いということで、社会の状況が変わってきていると感じた。

(委員)

長岡市の皆さんの方でいろいろな情報を総合して制度設計されているものについて、大変分かりやすく説明していただいた。これによって透明性のあるものができたり、よりよい政策になるのではないかと感じている。子どもに関する行政は、まちづくりとしても定住人口の増加等に寄与するものだと思うので、より魅力的な子育て支援ができるといいなと思っている。私自身もより深く理解して、一市民として協力していきたいと思っている。

(委員)

医療的ケアが必要なお子さんに対しての入園体制の整備について、私自身こういったお子さんを見かけたりケアする立場にある職場にいるが、仕事をしたくてもできないというご両親がいらっしゃるので、長岡市でこういった支援の整備が、新規事業として取り上げられたことを嬉しく思う。

(委員)

個人的な話だが、先日地方都市に住んでいる私の子どもが出産したので、子育て支援についてホームページで見てみたが、長岡市とは雲泥の差があった。新生児訪問は保健師さんが1度しか来てくれないし、長岡では母推さんが活躍されているが、そういうものも知らないということで、長岡市はとても充実した子育て支援をしていると思った。先程部長の話にもあった、「子育てしやすいまち日本一」というのも、実現できるのではないかと感じている。

私は主任児童委員として会議に出席させていただいており、地域住民の一人として児童虐待の早期発見という役割を担っているが、児童虐待は密室で行われているため、とても発見しづらいと実感している。今回野田市の事件があったが、発見しづらかっただろうと感じている。報道を見て、お母さんがDV被害者だったということも大き

な要素になっていると感じており、それがあまり報道されず、お母さんの心情を思うと切ないものがある。ただそれも密室で起きていることであるため発見しづらく、発見できたところでどうアプローチしていくか、とても難しいところだなとつくづく実感した。

(委員)

何も知らないまま参加させていただいていたが、子育て支援事業がたくさんあるということを知って、長岡市は素晴らしいところだなと改めて感じた。私は市のPTAの方から代表としてきており、放課後子ども教室に関わっているが、情報を役立て、もっと発信していきたいと思った。

(委員)

子ども食堂が3、4年前からできてきて、その頃は補助金が出ないとお聞きしたことを思い出したが、今は補助金ができるということと、キーワードとなっている情報の共有という観点で、新規に保育園から小学校への接続の課題の共有というところは、非常にいいことだと思っている。0歳から全て同じ部分で共有しているということが問題になっているかと思うが、これが少しでも緩和できるのかなと思っている。今データを取ってもらっており、タイムリーに情報を提供いただいているが、市が見ているということで、活動しているボランティア団体も勇気づくと思うので、今後もやっていただければと思う。

(委員)

今年度も参加させていただき、知らなかったことなどを教えていただく機会がたくさんあった。親子サークルを立ち上げて5年経過し、すぐに子ども・子育て会議の公募委員になった経緯があるが、自分たちの抱えている問題を皆さんと共有できる機会になっているというのが、私自身すごくエネルギーをもらっている。私の親子サークルでも、5年間の活動をまとめた冊子を次年度作っていきたいと思っているので、そういうところで活動を報告できればと思っている。

(委員)

昨年度から療育・相談体制のワーキングに関わらせていただき、ありがたく思っている。支援が必要なお子さんのことについて、皆さんで考えていただけたということが一番大きかったと思っている。ワーキングは終わってしまうが、そこで終わりではなく、貧困とも根っここの部分で共通していると思うので、配慮が必要なお子さんの対応についてまた皆さんで考えていただけたらと思っている。来年度の施策について、高等総合支援学校の通学の支援について今年お話をさせていただいていた中で、ジャンボタクシーの予算をつけていただき本当にありがたく思っている。またいろいろなところで進んでいけばいいなと思っている。

(委員)

この1年、それぞれの立場でそれぞれのご意見をお聞かせいただき、市の方で具体的な施策を作っていただいたということがとても嬉しいことだと思う。上の方で作られたものをやるのではなく、下の方からの要望、いろいろな方からの意見を実現して

いくことが大切だと思っている。31年度も子ども・子育て会議があるので、建設的なご意見を携えながら、充実した会議にしていけたらと思う。

4. その他

(1) 子育て支援団体の活動報告

下記資料について

- ・資料「&mama つなぎ」
- ・資料「Nagaoka みんなの子育てラボ みんなで育てる みんなが育つ」

(2) アドバイザーからのまとめ

限られた時間の中でとてもたくさん盛り込まれていた会議だったが、皆さんと長岡市の子育て環境の状況を共有することができてありがたいことだと思っている。報告いただいた全てのことについて、それぞれお話をさせていただきたい。

1点目の長岡市の療育・相談体制の検討ワーキング部会の報告については、本当に素敵なチラシとパンフレットができあがり、これを形にするまでのプロセスもとても大事な時間で、意味のあることだった。今後はこのパンフレットをいろいろなところで見ていただき、いかに使う事ができるかという段階になってくる。チラシについては、手書きで状況がとても伝わりやすく、こういった工夫もすごく大事な作業だと思いながら見させていただいた。相談の際にお子さんをみていただけるという体制も非常に良かったのではないかな。お子さんの心配事を、お子さんの前で話したくないと思うので、そのような配慮がありがたい。

2点目の生活実態調査の報告については、子どもの貧困というキーワードで見ると、養育力の高い保護者とそうでない方が混同しているなど感じた。全体的に、どのような状況でも保護者の方はとても頑張っておられるという印象をもつと同時に、その方たちの育てる力をいかに守りつつ、いろいろな事情で育てる力を発揮できていない方をどうサポートしていくかということを整理しながらみていきたい。

3点目の、子育て・育ちあいプラン策定に関するニーズ調査の結果についても、これから見させていただきたいと思うが、先ほど委員がおっしゃっていたように、働き方のところが大事になってくる。保育園に助けをもらうことや、地域との接点を持ち、社会と繋がりながら子育てをしていくということがプラスになる人と、一方ではそうではない人もいるということも見ていかななくてはならない。今、新潟県の方で、4年ほど前からやっていた少子化対策モデル事業がまとめの段階に入っており、もう少しすると結果も公表できると思うが、内容としては企業に対する期待というのが男性と女性では違うということがデータとして表れている。このあたりをどう考えていくか、子育て支援は実は少子化対策にも一役かっているということも、改めて見えてきた。長岡市でもどう考えていくかということと一緒に考えていけたらと思っている。

4点目の予算については、長岡市独自のものをこれだけ残しておられるのが素晴らしい。行政の皆さんの努力なしではできない予算取りだったのではないかな。特に、子ども

ナビゲーターが1名増員できるということと、ネウボラについても、より手厚く進めていただけるのはありがたいことだと思っている。保育の関係については、就学前のお子さんたちの育ちの環境をどう作っていくかということが大事になってくる。この課題は非常に大きく、これから数年かけてやっていかなければならないと感じているが、大人の事情ではなく「子どもファースト」で、就学前の子ども達の育つ環境を長岡市全体でどう考えていくのかを改めて考えさせられた。

2団体の活動報告についても素晴らしかったと思う。「&mama つなぎ」さんの、先生とのコミュニケーションワークショップなどは、小学生の子どもをもつ親にとっては先生とどう付き合っていくのかは悩みであり、「Nagaoka みんなの子育てラボ」さんは、子育ての駅などに足を運ぶ機会を作ってくださった。当事者のみなさんの声だからこそその気付きだったり、深まりだったと感じた。引き続き活動の報告を聞かせてもらうのを楽しみにしている。

最後に、これらを通して今一番考えていることは、子どもが育つ環境を、私たち大人や社会がどんなところを目指していこうとしているのかということと、その社会的合意をどうやってとっていくか、ここで話し合われている内容が社会全体に出た時に、時間と人とお金をかけていくという社会的合意形成をどこでどう作っていくかである。

5. 閉会

(出席委員の署名欄)

上記会議議事録は、その記載内容が事実と相違ないことを確認し、ここに署名をする。

長岡市子ども・子育て会議 委員長

㊞

10. 会議資料 別添のとおり